

(様式5)

市民意見募集手続の結果について

1 計画等の案の名称 第1次上田市交通安全計画(案)

2 募集期間 令和3年11月16日(火曜日)から令和3年12月15日(水曜日)まで

3 実施結果

(1)件数 8件(1人)

(2)提出方法

持参	郵便	電子メール	ファクシミリ	計
0件	8件(1人)	0件	0件	8件(1人)

4 意見に対する市の考え方

●計画に反映するもの

なし

●計画に反映しないもの

No.	意見区分	意見の概要(要旨)	市の考え方
1	P22～ 第2章 第2節 交通安全思想 の普及徹底 3(1)	交通安全スローガン「信濃路は みんなの笑顔 つなぐ道」は、文学的、短歌的なスローガンの選定より、運転者、歩行者に直接訴えかけるスローガンの方が良いと思われる。例えば「車はスピードを出さない」「左右の安全確認をして渡る」など。	記載したスローガンにつきましては、長野県交通安全運動推進本部において、交通安全に対する意識の高揚と、交通事故防止を図るため、県内外から公募をして策定した、令和3年度から5年間使用する長野県の交通安全スローガンです。本計画は、第11次長野県交通安全計画に基づいて作成しており、県計画のスローガンを引用しました。頂いたご意見につきましては、今後の計画策定の参考とさせていただきます。

●その他参考意見

No.	意見区分	意見の概要(要旨)	市の考え方
1	P13～ 第2章 第1節 道路交通環境 の整備	上田駅前お城口ロータリーの車の進行方向が直感的にわかりやすすくない為、誤った進行車両が多々見受けられる。ロータリーそのものの改善若しくは道路様式、標示を大きく掲げられると改善すると思われる。	お城口駅前広場は、各種交通の結節点であり、鉄道等の乗降客、バス・タクシー、一般車などの様々な交通を処理する機能と利便性を確保するものとして平成15年に再開発事業により現在の姿に整備されました。平面(面積)、構造上の制限もある中で、駅周辺の民間駐車場や温泉口駅前広場との役割分担、いただいたご意見や他市の事例も参考に今後もより使いやすい駅前広場となるよう取り組んでまいります。
2	P13～ 第2章 第1節 道路交通環境 の整備	駅前ロータリーの30分無料駐車場の見直し。松本駅や塩尻駅のようにしたらいかがか。また、この場所に大型観光バスの乗り入れを可能としたら、乗客に高齢者が多いことから、新幹線に乗りやすくバリアフリーな場所になると思われる。	

No.	意見区分	意見の概要（要旨）	市の考え方
3	P14～ 第2章 第1節 道路交通環境 の整備	サントミュージゼ西側の道路から千曲川に橋を架け、御所、手塚自転車店まで6メートル幅の道路が設置できれば交通の利便性が上がるのではないかな。	橋梁新設には取り付け道路も含め、多大な時間と費用を要するため、困難な状況です。
4	P19～ 第2章 第2節 交通安全思想 の普及徹底	中学校、高校で朝礼の時に校長先生に、月一回は交通ルール、交通の安全を実行する方法を具体的に話してもらったらいかがかな。 一般人には、ポスターの張り出し、のぼり旗、テレビを活用した啓発活動などを実施したらいかがかな。	小中学校においては、安全教育担当の教諭を配置し、安全についてのきまり、安全な行動の仕方を理解させ、常に安全を確認して危険防止に努める心情を養う学校教育活動を行っております。必要に応じて児童生徒へ指導を行い、主に登下校の安全を確保してまいります。
5	P25～ 第2章 第2節 交通安全思想 の普及徹底 3(11)	自転車の交通ルール無視が散見される。高校近くの道路に、注意喚起ののぼり旗を立てるのが良いのではないかな。	自転車の安全利用については、これまでも、季別の交通安全運動などの機会をとらえ、関係機関・団体と連携して交通安全啓発活動を実施しているところですが、頂いたご意見を参考にし、引き続き啓発活動に取り組んでまいります。
6	P25～ 第2章 第2節 交通安全思想 の普及徹底 3(11)	車のドライバーのウインカー合図不履行が散見される。ウインカーを出すのを促す看板やのぼり旗の設置や、安協職員が路上に立ってウインカーを出すのを促したらいかがかな。警察官、プロドライバー、教師、当計画に携わった公務員への働きかけ、大工場の出入口へポスター掲出などの働きかけをお願いしたい。	頂いたご意見につきましては、関係機関・団体と共有し、今後の取り組みの参考とさせていただきます。
7	P28～ 第2章 第5節 道路交通秩序 の維持	道路を横断する際、一旦止まって左右の安全確認をしない歩行者が散見される。車は止まるのが当然であり、車から守られるのが当然だという意識を強く感じる。道路の横断には左右の安全確認をして渡ろうという意識を持ってもらうPR活動をしたらいかがかな。	横断歩道の安全利用については、これまでも、季別の交通安全運動の機会などで、ドライバー、歩行者それぞれの立場に立った交通安全啓発活動を実施しているところですが、引き続き、警察などの関係団体と連携し、PR活動に取り組んでまいります。